

第6学年2組 体育科学習指導案

日 時 令和5年11月22日(水) 5時間目

指導者 大谷 亮介

1 単 元 鉄棒運動

2 目 標

- (1) 支持系の技の行い方や補助の仕方を知り、基本的な技やその発展技をしたり、それらを繰り返したり組み合わせたり、友だちの補助をしたりすることができる。
- (2) 課題を見付け、自己の課題に応じた学び方や練習の仕方を選んだり、友だちと見合ったり、補助をしたりしながら、自己や仲間の考えたことを伝え合うことができる。
- (3) 友だちの考えや取組を認め、安全に気を配ったり、約束を守り助け合ったりしながら、積極的に運動に取り組むことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①支持系の技の行い方について言ったり、書いたりしている。 ②支持系の基本的な技やその発展技をしたり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。 ③補助の仕方を知り、友だちの補助をすることができる。	①課題を見付け、それに応じた学び方や練習の仕方を選んでいる。 ②技のコツやポイントなどについて、動作(補助)や言葉、絵図などを使って友だちに伝えている。	①友だちの考えや取組を認めようとしている。 ②場や用具の安全を確かめている。 ③約束を守り助け合いながら積極的に学習に取り組んでいる。

4 基 盤

- (1) 鉄棒運動は、鉄棒で回転したり、支持したり、逆位になったり、懸垂したりするなどの技に挑戦し、技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、低学年の鉄棒を使った運動遊びや中学年の鉄棒運動での経験を生かすなど、系統性を意識することで、高学年での鉄棒を使った基本的な技やその発展技の習得につながると考える。

鉄棒運動はこれまでの運動経験によって技能に差が表れやすく、苦手意識をもつ児童が多い運動であるといえる。本単元では、単元の導入で設定した「なりたい姿」を達成するために、自分で動画を見てポイントを知ったり、補助の仕方を知り友だちと補助をし合ったりするなど、自分に合う学び方を選びながら、技能を高めていけるように単元を構成した。学び方を選ぶことができるようにすることで、鉄棒運動に苦手意識をもつ児童も「動画を見たらポイントがわかって、できるようになった。」「友だちの補助でできるようになった。」など、自分に合う学び方で課題を解決していくことができると考える。このような単元構成によって、苦手意識をもつ児童もできる喜びを味わいながら、進んで学習に向かうことができるようにしたい。

(2) 本学級は、運動好きな児童が多く、休み時間には体を動かして遊ぶ児童が多い。一方で、運動経験によって技能面に差が見られ、運動に苦手意識をもつ児童もいる。昨年度、鉄棒の学習を行った際、自分の体を支持したり、逆さになったりすることに難しさを感じる児童が多く、技能面で差が見られた。授業では、教師や友だちが補助をして逆さ感覚や回転感覚を味わえるようにしたり、自分に合う学び方を選び、課題を解決できるような環境を整えたりした。教師や友だちからの補助により体の使い方がわかり、自分に合う学び方で学習を進めることにより多くの児童が自分のペースで「できる」感覚を身に付け、安心して運動に取り組む姿が多く見られた。そのため、本単元でも、「補助で感覚をつかむこと」や「自分に合う学び方を選ぶこと」に重点を置き、どの児童も「できる」感覚を味わい、安心して学習に取り組むことができるようにする。

(3) 児童が自分の「なりたい姿」に向かって、試行錯誤しながら、進んで学習に取り組めるよう、以下の手立てを行う。

○「なりたい姿」の設定

単元の導入で、自分ができる技や挑戦したい技に取り組む時間を設け、一人一人が問題を見付け、課題を設定する。いろいろな技を見たり、取り組んだりする中で、「前方支持回転ができるようになりたい。」「だるま回りが連続でできるようになりたい。」など、児童が「なりたい姿」をもてるようにする。「なりたい姿」を設定することで、目標が明確になり、それに向かって学び方を選び、試行錯誤しながら学習に取り組むことができるようになる。

○「学び方」の選択

今年度、走り高跳びの学習で「学び方」を選択できるようにした際、児童が自らの課題に向かって、自分で考えながら練習をしたり、友だちと協働的に学び合ったりする姿が見られた。本単元でも「なりたい姿」に向かうために、児童が自分にとって最適に必要な学び方を判断し、選びながら学習を進めていくことができるようにしたい。そこで以下の3つの学び方を用意した。

①お手本動画（鉄棒 DVD 島根県保健体育課）から学ぶ

技の習得方法や系統性がまとめている鉄棒 DVD を児童が自由に操作できる環境を整えておくことで、児童が自分に必要なタイミングで技のポイントや練習方法を知ることができるようにする。

②6の2鉄棒動画から学ぶ

毎時間、「今日のベスト動画」を Google の共有ドライブに保存するようにし、「オリジナル鉄棒動画集『6の2鉄棒動画』」を作成していく。すべての児童が動画を見ることができると、困ったときや悩んでいるときに、動画を見たり、動画に映っている友だちにアドバイスをもらったりすることができるようにする。また、動画を見ることで、自分と友だちの動きを比較でき「もっと勢いよく回ろう。」「つま先まで伸ばしてみよう。」など、よりよい動きに迫ることができるように考える。

③補助から学ぶ

動きの習得のために、補助は欠かせないが、現状は教師が補助をしていることが多い。正しい補助の仕方を児童が知ることにより、児童同士で動きのポイントを考えながら練習できるのではないかと考え、単元計画に、補助の方法を知る時間を設定する。本単元では、後方支持回転や前方支持回転などの回転技を中心とした技を身に付けるための段階的な下位運動や補助の指導をあわせて行うこととする。補助を経験することで動きのポイントについて考える機会が増えたり、友だちの動きを様々な視点から観察したりすることができ、技の習得にも効果的だと考え

る。さらに、補助をし合う中で、児童同士の対話が生まれ、お互いに支え合ったり、考えを伝え合ったりする姿を目指していきたい。

本時では、始めに、今日の学び方のめあてや取り組みたい技を Google スプレッドシートに記入することで、見通しと目標をもって練習に取り組めるようにする。そして、取り組みたい技ごとに場を分け、児童同士で補助やアドバイスをしやすい環境を用意する。学び方を選び、練習に取り組む際、鉄棒に苦手意識のある児童や初めて挑戦する技に対して不安をもつ児童には、補助の片方に教師が付き、安全に運動を行うことができるようにする。さらに、下位運動を紹介し、一緒に取り組むことで、安心して学習に向かうことができるようにする。また、基本的な技ができる児童には、連続技や発展技、技の組み合わせを紹介したり、つま先を伸ばしてきれいな技にしたりするなど、よりよい動きを追求できるよう声かけをする。

5 指導と評価の計画（6時間）

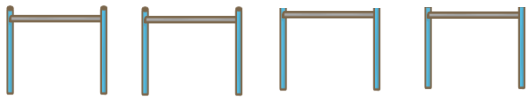
次		◎ねらい ○学習内容	◇評価規準 ◆評価方法
第一次	1	◎学習の進め方を知り、既習の技や自分ができる技に取り組む。 ○学習の進め方を知る。 ○既習の技や自分ができる技に取り組む。	◇態② ◆観察 ◆ふりかえり（スプレッドシート）
	2	◎鉄棒の学習での「なりたい姿」を考える。 ○学び方を知る。 ○いろいろな技に取組み、「なりたい姿」を考える。	◇知・技① ◆観察 ◆ふりかえり（スプレッドシート）
第二次	3	◎だるま回り、前方支持回転、前方片膝掛け回転のやり方や補助の仕方を知る。 ○基本的な技のやり方や補助の仕方を教わる。 （島根大学 久保先生） ○友だちと補助をし合う。	◇知・技③，態③ ◆観察 ◆ふりかえり（スプレッドシート）
	4	◎だるま回り、前方支持回転、前方片膝掛け回転のやり方や補助の仕方を知る。 ○基本的な技のやり方や補助の仕方を教わる。 （島根大学 久保先生） ○友だちと補助をし合う。	◇思・判・表②，態① ◆観察 ◆ふりかえり（スプレッドシート）
第三次	5 （本時）	◎「なりたい姿」に向かって、学び方を選び、練習に取り組む。 ○自分に合う学び方を選び、取り組みたい技の練習をする。	◇思・判・表① ◆観察 ◆ふりかえり（スプレッドシート）
	6	◎これまでの学習を踏まえ、発表会をする。 ○できるようになった技に取り組む。 ○友だちと発表を見合う。	◇知・技② ◆観察 ◆ふりかえり（スプレッドシート）

6 本時の学習（5/6）

(1) 本時の目標

自分の「なりたい姿」に向かって、学び方を選び、動画を見たり、友だちと補助やアドバイスをし合ったりしながら、練習に取り組むことができる。（思考力、判断力、表現力等）

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援と評価
<p>1 器具の準備，慣れの運動に取り組む <ふとんほし→つばめ→とびおり> <連続前回り下り></p> <p>2 本時のめあてを確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ けがの予防のため，手首や首を動かす運動を重点的に行う。 ・ 継続的に行っている支持感覚や回転感覚をつかむツバメや前回り下りなどの運動に取り組む。 ・ 前時の様子を紹介し，自分で考えながら取り組んでいる姿や協働的に学び合う姿を価値付け，本時の学習につなげる。
<p>自分に必要な学び方を選び，できるようになりたい技に挑戦しよう！</p>	
<p>3 今日の学び方のめあてや取り組みたい技を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄棒 DVD を見て，どんな練習をしたらダルマ回りができるようになるのか知りたい。 ・ 前方片膝掛け回転を友だちに補助してもらってできるようになりたい。 ・ 前方支持回転をするために，6 の 2 動画を見て，上手な友だちからアドバイスをもらおう。 <p>4 練習に取り組む</p> <p>ダルマ回り 前方支持 前方片膝 発展技</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 前方支持回転をするために，前にいる友だちをぎりぎりまで見るようにしよう。 ・ 前に倒す時に勢いをつけると回れそうだよ。1・2・3で勢いよく回ってみよう。 ・ ○○さんにダルマ回りを連続で回るコツを聞いたなら，膝の裏をしっかり抱えることって言っていた。 <p>5 ふりかえりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄棒 DVD を見ていろいろな練習方法を試してみると，ダルマ回りのコツがわかってきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学び方のめあてや取り組む技をスプレッドシートに入力できるようにし，見通しや目標をもって練習に取り組めるようにする。 ・ 前時で教わった補助の仕方を動画で振り返り，正しく安全に補助をし合うことができるようにする。 ・ ダルマ回り，前方支持回転などでグループ分けをすることで，同じ目標をもつ児童同士で補助をしたり，技のポイントを伝え合ったりすることができるようにする。 ・ 鉄棒に苦手意識のある児童や初めて挑戦する技に対して不安をもつ児童には，補助の片方に教師が付き，安全に運動を行うことができるようにする。また，下位運動を紹介し，一緒に取り組むことで，安心して学習に向かうことができるようにする。 ・ 基本的な技ができる児童には，連続技や発展技を紹介したり，つま先を伸ばしてきれいな技にしたりするなど，よりよい動きを追求できるよう声かけをする。 ・ 進んで運動に取り組んだり，上手に補助をしたりしている児童を褒め，具体的な言葉でよさを伝える。 ・ 児童同士で見合うことができるスプレッドシートを使用することで，友だちの頑張りを知ることができるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・友だちから補助をしてもらって、できるようになったし、回る時にもっと勢いをつけたらいいとわかりました。 ・〇〇さんの動画を見ると、勢いをつけるために頭を大きく振っていたので、まねしたいです。 	<p>評価【思考・判断・表現】</p> <p>自分の「なりたい姿」に向かって、学び方を選び、動画を見たり、友だちと補助やアドバイスをし合ったりしながら、練習に取り組んでいる。</p> <p>(観察, スプレッドシート)</p>
--	---

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<p>概ね満足できると判断される状況に加え、できるようになるために練習の仕方を工夫したり、友だちに具体的なアドバイスをしたりしている。</p>	<p>自分に必要な学び方を選び、動画を見たり、友だちと補助やアドバイスをし合ったりして、練習に取り組んでいる。</p>	<p>「なりたい姿」を確認し、そのためにどんな学び方がよいかを提案したり、一緒に取り組んだりする。</p>